<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>タイトル</td>
<td>井リヤム・タムスンの分配論 (二)</td>
</tr>
<tr>
<td>作者</td>
<td>堀 (經夫)</td>
</tr>
<tr>
<td>単位</td>
<td>経済論叢 京都大学経済学部経済学研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>タイムスタンプ</td>
<td>1921-09-01</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="https://doi.org/10.14989/127819">https://doi.org/10.14989/127819</a></td>
</tr>
<tr>
<td>タイプ</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>出版者</td>
<td>京都大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ファイルタイプ</td>
<td>publisher</td>
</tr>
</tbody>
</table>
叢論 濁経

巻三 第十号

給付能力原則の適用

原田正雄

農業労働問題

中世都市の発達

小学教育費の研究

井リヤム・タムスンの分配論

小川郷太郎

大阪博士

山本美魅

経済修士

小山田小七

経済修士

堀 際

日英米の海軍協定

戦後英吉利の経済状態

日英米の海軍協定

財部 靜治

法學士

法學士

小島昌太郎

財部 靜治

法學士

法學士

三郎 小見

経済修士

経済修士
井利ヤム・タムスンの分配論（二）

経

第二章
自由競争の上に立つ経済組織の検討

第六節
平等と安固（労働集団権等）（Equality and Security）

（一） 自由競争とは、言ふ迄もなく、社會各個人の利己的活動を認し、彼等を以て夫々自己の
最も有利なりを信心する方面に自由に活動させしむる制度をいふのであって、これを盲び換へば
個人主義に外ならぬ。此の思想は既に先従に於て第十七、八世紀に起つたものであって、チャ
イルド、ベテイ、キング、ヒューム等を経て、アダム・スミスに至って経済學上の根本概念となっ
た。スミスは、各個人が自己的利益を追求のほは、人類共通の幸福であつて、これ有るが故に人類
に
あたって、何等の矛盾をも含まないであろう。差し勞働が富の唯一の生産者であるといふ以上、或る個々の労働のみによって生産される富を若しかかる富があるとするならば、各個人の利己心の激发を是鍼する限りに於て、當然に推し得る事柄であるが故である。タムスンは、既の如く各個人に彼れの勞働の生産物たる富の全度分隔を保証することを分配の安固と称した。

（三）若しも自由競爭の制度の下に於て此の分配の安固が無く、各個人は必ずしも自己の勞働の生産物を享有することを結果ない。従つて之等の不可能事を流すものであるから、是に於て自由競爭は自由分配の平等を行はんとするは、正反動なる要求を同時に行うべきである所である。斯くて自由分配の平等を行はんとするは、正反動なる要求を同時に充たすものであつて、到底不可能事事を免れない。

之を要するに、自由競爭の下に於て平等を実現せんとさせ強制による外なく、面から自己競争を頼るに至るべきである。
自由競争の制度の下に於て、吾々は安固の要求に違反させる程度の平等に満足させるべく

(一) 自由競争の制度の下に於て、吾々は安固の要求に違反させる程度の平等に満足させるべく

吾々は安固の要求に違反せる程度の平等に満足させるべく

(一) 自由競争の制度の下に於て、吾々は安固の要求に違反せる程度の平等に満足せるべく

17) Cf. Distribution, p. 95.
であろう所の富を探索又は準備する為に自己の労勤を使用するかによって、富の享楽に参興する一つの労働或は所謂応用有するに於ててのタムスの所説なり。事と明かとなったであろうし、タムスは彼の場合にあつて、此等の意を以て、便宜上此成にタムスの所謂分配の自然法則なるものに之を加ぶるであろう。

此の法則の第一は、自由競争の制度の下に於てする分配の自然法則であるとされている。余は、今まで自由競争の分配の自然法則なるものに之を加ぶるであろう。タムスは此の法律を以て、自由且つ自発でなければならないと述べつつある。何よりもに要求される法律を加べたる

説苑
所謂タムスの分配論(二)

第二の法則は、自由競争の経済組織に就て述べられ来るる事業の市価を有するものに之を加ぶるであろう。タムスは此の法律を以て、自由且つ自発でなければならないと述べつつある。何よりもに要求される法律を加べたる

説苑
所謂タムスの分配論(二)

第三卷（第二論）二

四三

18) Ibid. p. 97.
20) Ibid. p. 175 and p. 178.
所のものである。

仮て以上の三法則は、若しも忠実且つ公平に行はるならば、富の生産を其の最大限度に保持するのみならず、不平等より起る不利益を其の最小限度に止むであろう。自由競争の制度の下に於ける経済組織が享受しう得る最大限度の幸福は、此等の法則によってのみ確保するものである。

第三節
自由競争主義の長所及び略缺

（一）自由競争の制度及分配の平等をいふことの大要を及ぶものなることは、前述の如くである。任意的交換によつて平等なる安固が認められる時には、タムスンは之を平等なる安固こそと調和されられる所なり。この等なる安固こそは、自由競争の制度の下に於て実現し得る最大限度の正義である。今日は之等の交換（=タムスン所謂分配の安固）が確立されてゐる社会に於て、平等なる安固が実現されてゐる発展しないわけでも、併し、タムスンの考えによれば、この平等なる安固は自由競争制度の上に立つ今日の経済組織に於て実現し得る所の事実を知くとはならない。若しこれが確立されれば、かの野蠻末期の時代に於ける無制覇野、かの異政時代に於ける人心の荒廃、或は迷信宗教に諸されたる中世の暗黙時代に於ける人心の蔽蔽ささまを知り得るなる
最も制限させられる最も形に於ける自由競争より生ずる所、此等の弊害の最も著しいものの一つは、恐らく次の諸項目の下に含まるものであろう。一、それは自由競争を指す、之者が自由なる機運となさるや否や。
二、人は人間の何片片の知識を繊細、又は人間の生活に於て最も可及的に主らしきものと/or/無理に云ふべきものと、如何なる知識を発表されたもの、判断の範囲を限れる故に、時として類人
な努力の方法を不利な又は不甚明なるものとを手順を異なげるのに、

偏見及び偏制によって、有用なる物質的及び精神的教育的進歩を妨げる。而して、是は、亦、

科学的及び技術的進歩を、個人の利益の為に便立たしむる為に、陰蔽する必要よりして、一般的知識の進歩を妨げる。

等の中でタムスは、第一のものを最も大なる弊害なりと/or/無理に云ふべきものと，如何なる知識を発表されたもの、判断の範囲を限れる故に、時として類人
な努力の方法を不利な又は不甚明なるものとを手順を異なげるのに、

偏見及び偏制によって、有用なる物質的及び精神的教育的進歩を妨げる。而して、是は、亦、

科学的及び技術的進歩を、個人の利益の為に便立たしむる為に、陰蔽する必要よりして、一般的知識の進歩を妨げる。

第十三章（第四四）、四七

24) Ibid. p. 359.
この言葉は、我々の生活において常に重要である。健康を維持し、幸福を求めるためには、Equity（公平）とSocial Justice（社会的公正）が不可欠である。Equityは、公平な環境を提供し、すべての人々が自由に発展できる環境を創出することを意味する。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可欠である。

"Equity" と "Social Justice" は、常に合いがたい双系概念である。Equityは、社会の一部を対象にした施策をより平等に適用することで、差別を避けることを目指す。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可欠である。

"Equity" と "Social Justice" は、常に合いがたい双系概念である。Equityは、社会の一部を対象にした施策をより平等に適用することで、差別を避けることを目指す。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可欠である。

"Equity" と "Social Justice" は、常に合いがたい双系概念である。Equityは、社会の一部を対象にした施策をより平等に適用することで、差別を避けることを目指す。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可欠である。

"Equity" と "Social Justice" は、常に合いがたい双系概念である。Equityは、社会の一部を対象にした施策をより平等に適用することで、差別を避けることを目指す。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可欠である。

"Equity" と "Social Justice" は、常に合いがたい双系概念である。Equityは、社会の一部を対象にした施策をより平等に適用することで、差別を避けることを目指す。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可欠である。

"Equity" と "Social Justice" は、常に合いがたい双系概念である。Equityは、社会の一部を対象にした施策をより平等に適用することで、差別を避けることを目指す。Social Justiceは、社会全体のための公正さを確保し、不平等を避け、全ての人々が平等に生活することができるような社会を創出することを意味する。この両方の概念が、平等な社会を築くために不可缺